

## 理事長あいさつ

### 1億円事業所に成

理事長 船越



日本経済の低迷が長引き、マイナス成長に悩む企業、事業所が続出している中で、社団法人精華町シルバー人材センターの業績は20年度もプラス成長を遂げ、受託額1億円を達成することができました。これは、会員の皆様方の真面目な働き振りが住民や事業所に評価されて口伝で顧客を増やしていることや、精華町を始め企業、事業所の理解と協力で発注額を増やしてもらったお蔭であると感謝しています。

また、20年度は会員337人のうち90%にあたる306人に何らかの仕事についてもらうことが出来ました。配分金は8,600万円になり、地域経済の活性化に役立ったと自負しています。

精華町シルバー人材センターが産声をあげたのは6年前の平成15年3月27日でした。設立当初の会員数は199人、初年度の受託額は5千万円でした。それから毎年平均1千万円増のペースで受託額を積み増すことが出来、この3月末に待望の1億円の大台に到達したわけです。この記念すべき年の総会で、規程に従って70歳以上の会員61人を表彰できたことは大変意義深いことだと思っています。

さて、これからのセンターが歩んでいく道筋ですが、私は量的拡大を目指してきた道から、質的転換を図る道へ、21年度はちょうどその分かれ道に当たるのではないかと見ています。質的転換に向かう最大の理由は公益社団法人への移行です。シルバー人材センターの全国組織、全国シルバー人材センター事業協会は5年以内に全国のシルバーを公益社団法人へ移行させる目標を立てています。精華町シルバー人材センターも同じ方向に向かいます。

公益社団法人へ移行すれば、「公益」という名称が使え、他の組織との違いをはっきりさせて社会的信用が増し、受注競争に有利である、税制面で優遇措置があるなどの利点があります。半面、運営や事務処理が厳しく制約されます。何よりも、公益目的事業を行うことを主な目的にしなければなりません。公益目的事業とは「不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するもの」をいいます。

シルバーはこれまで会員である高齢者の福祉の増進を目的にしてきました。公益法人移行後は会員のためだけの活動、閉鎖的な運営は歓迎されなくなります。「不特定かつ多数の人のために」つまり広く社会に貢献するという行動が絶えず求められることとなります。具体的にどうするかはいずれみなさまにお示ししますが、要は世のため、人のために一層役立つ組織を目指していくこととなります。会員の皆様のご支援をお願いします。

## 平成20年度決算監査報告

平成20年度決算の監査を以下のとおり実施しました。

### 平成21年4月21日（火）

収支計算書及び財務諸表の確認について  
衣目公認会計士事務所 公認会計士 衣目修三

### 平成21年4月23日（木）

会計及び業務監査  
監事 杉江幸信  
監事 安岡 誠